

令和元年度第1回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果

日時：令和元年10月9日（水） 18：00～19：20

場所：茨城県庁9階901会議室

【委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
公認会計士	清水 至 氏
群馬県立小児医療センター院長	外松 学 氏
茨城県精神科病院協会会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	原 晃 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏
日製日立総合病院長	渡辺 泰徳 氏

【議事内容・意見等】

○議事内容

- ・茨城県病院事業中期計画（平成30～令和5年度）の進捗状況について
- ・平成30年度決算について

○主な意見

- ・こども病院のDPC（診療報酬の包括評価制度）導入は評価する。病床は少ないが医療の高度化を目指し、患者1人あたりの単価が上がるような方向性を絶えず意識している。
- ・医療の質を担保するために繰入金が必要な資金であり、繰入金がなければ公立病院は運営できない。あまりにも繰入金を削減しようすると、設備の更新ができなくなるなど病院の将来を危うくする。
- ・医師事務作業補助者の人件費は診療報酬で加算できるので、もっと増員して収入を確保するとともに、医師が働きやすい環境を整備する必要がある。
- ・コスト削減のための手法として外部委託があるが、人手不足や消費税増税等の理由によって、委託料が上がることも想定されるため、職員を直接雇用する発想を持つことも考えられる。